

日本語における外心構造の用法の分析

(統語論・意味論からの一考察)

序論

2つ以上の語が結びついた言語単位を日本語には句と言います（町田健 2004:78）。日本語の句は構造とその構成素に基づき、二つに分けられる：内心構造と外心構造である。外心構造は大きな構造が構成要素のいずれとも異なる機能を果たしている場合（町田健「2004:143」）。外心構造も二つに分けられる、直接構造と間接構造。（町田「言語学入門、2004:143」）

直接構造は句構造の変形規則がこの文法で重要なものになるという、間接構造は一つの文にふたつの句構造が運びつかれて、特別の意味を所有するという。外心構造の特徴は要素形を作られるものである。意味的を見ると外心構造は色々な意味を持っている。

この論文を書く理由は要素形と文法的意味の外心構造を説明することができる。この論文には研究者は統語論と意味論の方法を使っている。統語論は文というのは構造体を構成する最小の構成要素が結合又は配列するとき働く規則を考察する分野「牧野（1996:160）」。田村によると言葉には意味があり、その意味を研究対象とするのが意味論である「田村(1992:88)」。

この研究には外心構造を分かるように IC 分析を使っている。「晴海

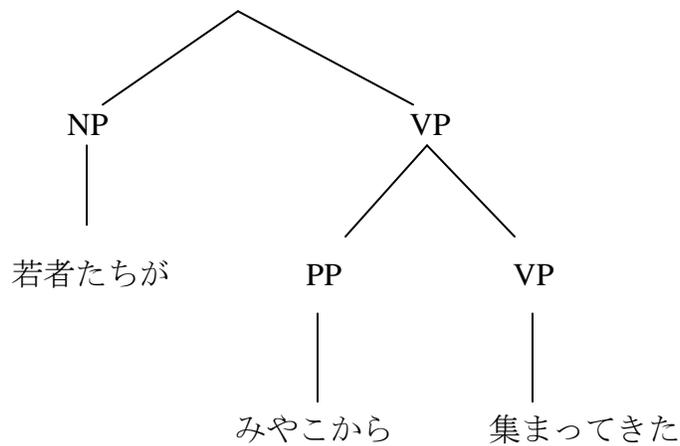
(1975:103) IC分析の一般原則は構成要素最大限に自由に現れ得るように構成体を分割することである。

本論

1. 直接構造

直接目的語には起源方向と目的方向を現す。この文の下には直接構造の意味を表す。例えば：

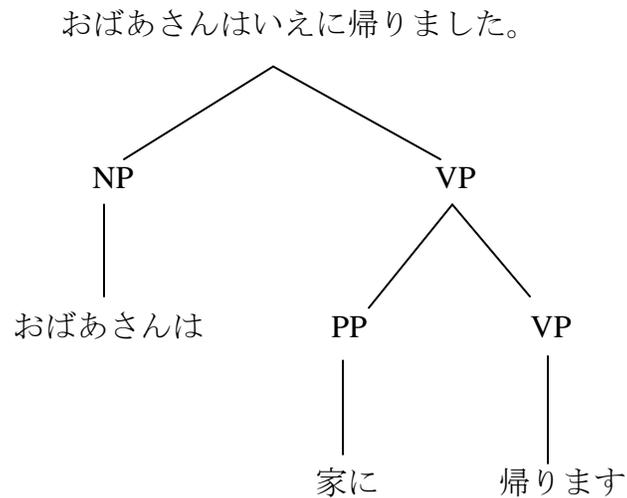
わかものたちがみやこから集まってきた



この文は短文である。直接構造は後置詞句と動詞句から形式的にできている。「集まってきた」は移動動詞である。意味的には後置詞句と動詞句の仕組みは移動意味を表す「みやこから」。移動するのは「若者たち」である。

次の文は直接構造の適当起源の意味を表す。例えば：

「おばあさんはももを拾ってあげるといえに帰りました」。この文は複文である。直接構造は主文にある。この主文は次のように分析できる

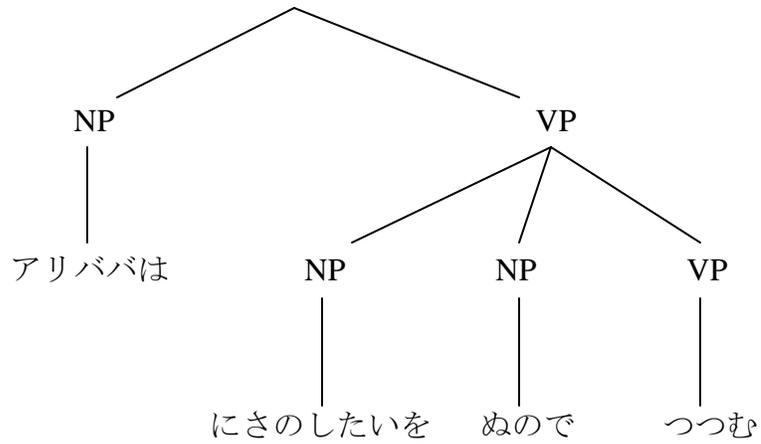


この文は短文である。直接構造は後置詞句と動詞句から形式的にできている。「帰ります」は移動動詞である。意味的をみると後置詞句と動詞句の仕組みは移動意味を表す「家に」。移動するのは「おばあさん」である。

2. 間接構造

次に二つ目の外心構造のは間接構造である。間接構造は設備と場所を表。文の下には間接構造の意味を表す。例えば:

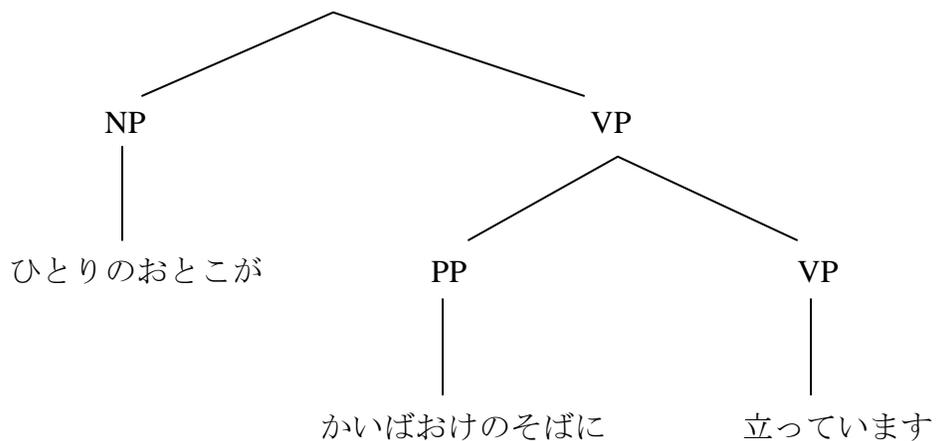
アリババはにさのしたいをぬのでつつむ



間接構造は名詞句「ぬので」と動詞句「つつむ」からできている。動詞句「つつむ」は継続動詞である。意味的には主語がある場所に活動をやっている。主語「ありばば」はなんの移動をしていない。

次の文は間接構造の適当起源の意味を表す。例えば：

かいばおけのそばに、ひとりのおとこが立っています



間接構造は後置詞句「かいばおけのそばに」と動詞句「立っています」からできている。動詞句は状態動詞である。意味的にを見ると主語はある場所に活動をやっている。主語「男」はなんの移動をしていない。

結論

直接構造要素は後置詞句と動詞句がある。助詞が後置詞句につれて「へ、に、から、まで」。動詞句は移動詞を表さなければならないである。移動動詞というのは格助詞で示させてそれが現れることがある、すなわち対処する主体方向移動する場合である。この構造は主語を動きの意味を現れるようになる。後置詞句と動詞句を装備させるようになければなりません。

後置詞句 ←————→ 動詞句

つぎに間接構造要素は名詞句と後置詞句と動詞句がある。助詞が後置詞句と名詞句につれて「で、に」。動詞句は継続動詞または瞬間動詞がある。この構造は主語を状態のいみを表す。後置詞句と名詞句と動詞句を装備させるようになければならない。

名詞句 ←————→ 動詞句

後置詞句 ←————→ 動詞句

DAFTAR ISI

KATA PENGANTAR.....	ii
DAFTAR ISI.....	iv
BAB I. PENDAHULUAN	
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah.....	8
1.3 Tujuan Penelitian.....	8
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian.....	8
1.4.1 Metode Penelitian.....	8
1.4.2 Teknik Kajian.....	9
1.5 Organisasi Penulisan Skripsi.....	10
BAB II. KAJIAN TEORI	
2.1 Sintaksis	12
2.2 Semantik	23
2.2.1 Semantik Gramatikal.....	24
2.2.2 Semantik Leksikal.....	24
2.3 Frase Eksosentris.....	25
2.3.1 Frase Eksosentris Direktif	25
2.3.2 Frase Eksosentris Indirektif.....	26

2.4 Analisis IC	29
BAB III. ANALISIS PENGGUNAAN FRASE EKSOSENTRIS DALAM BAHASA JEPANG	
3.1 Frase Eksosentris Direktif.....	31
3.1.1 Frase Eksosentris Direktif Bermakna Asal Arah.....	31
3.1.2 Frase Eksosentris Direktif Bermakna Tujuan Arah.....	39
3.2 Frase Eksosentris Indirektif	48
3.2.1 Frase Eksosentris Indirektif Bermakna Sebuah Alat.....	48
3.2.2 Frase Eksosentris Indirektif Bermakna Sebuah tempat.....	55
BAB IV. SIMPULAN	63
DAFTAR PUSTAKA	vi
DAFTAR KAMUS.....	vii
DAFTAR REFERENSI ANALISIS.....	viii
LAMPIRAN DATA I	ix
LAMPIRAN DATA 2 (KORPUS).....	xxii
SINOPSIS	xxxv
RIWAYAT HIDUP.....	xxxx